

経営比較分析表（令和元年度決算）

大分県国東市 国東市民病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|--------|---------|---------|---------------|------------|
| 条例全部 | 病院事業 | 一般病院 | 200床以上～300床未満 | 自治体職員 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営 | 20 | - | ド透訓 | 救臨感へ災 |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 看護配置 | |
| 27,682 | 15,845 | 非該当 | 10:1 | |

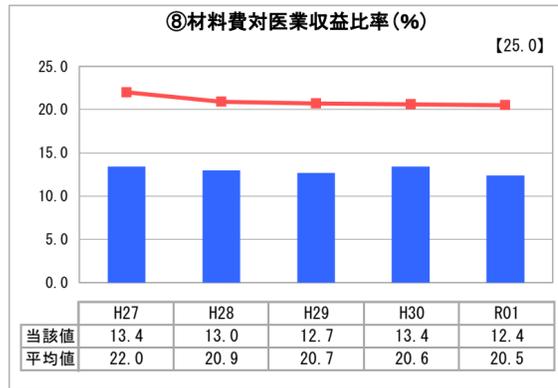
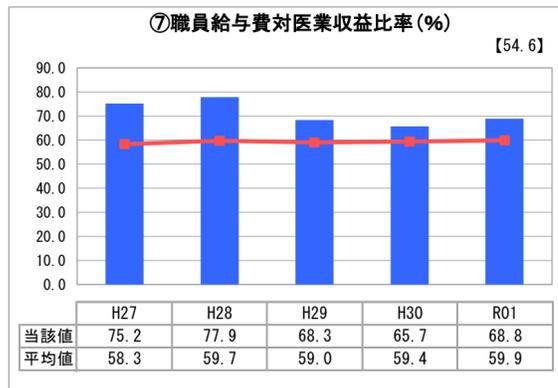
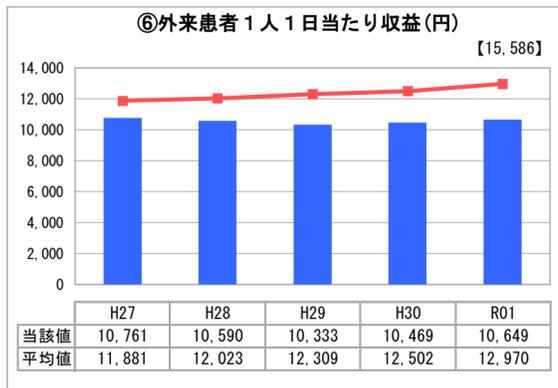
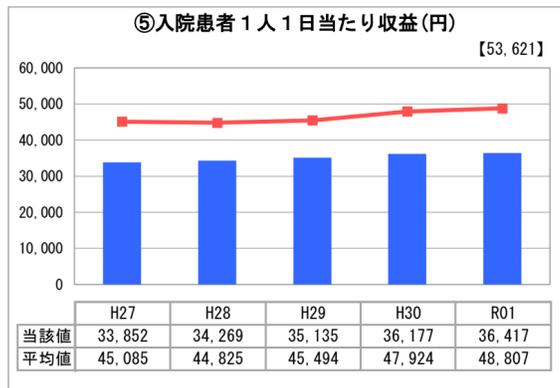
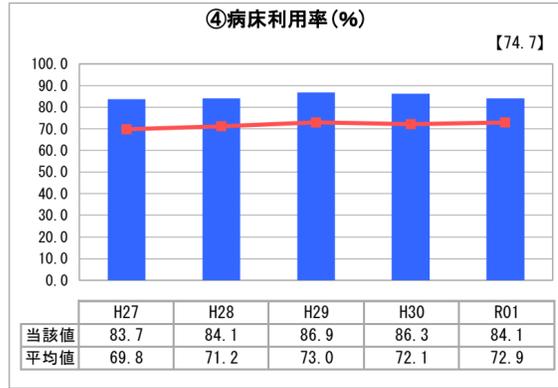
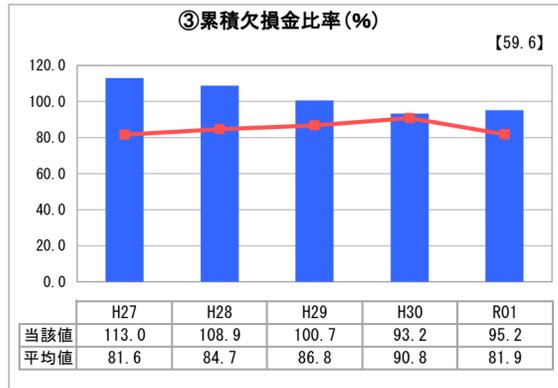
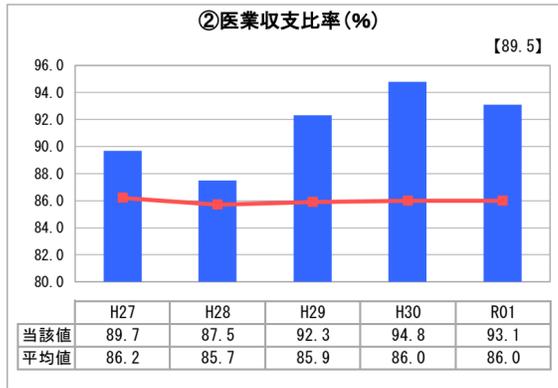
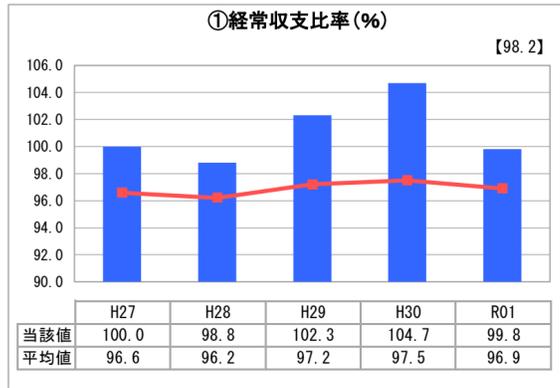
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

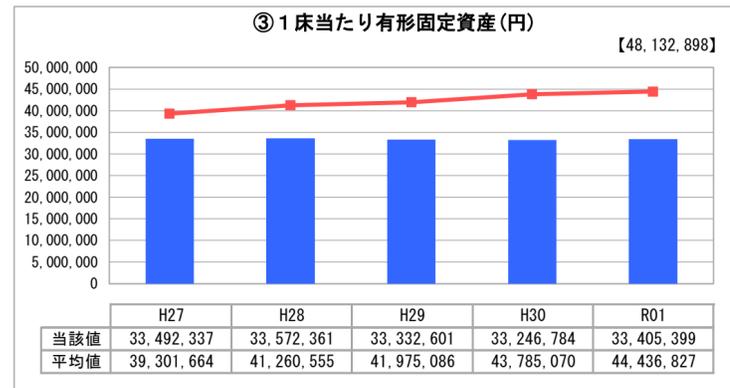
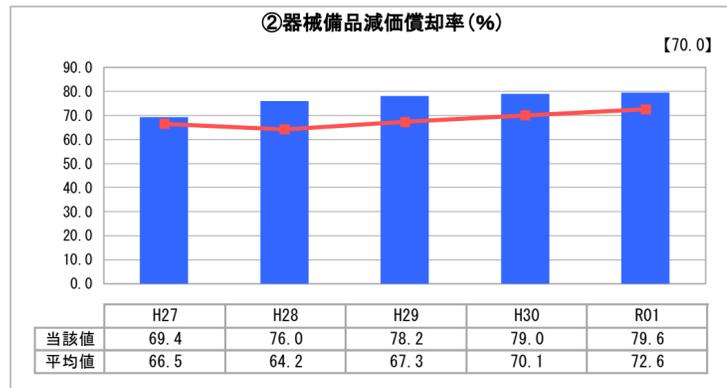
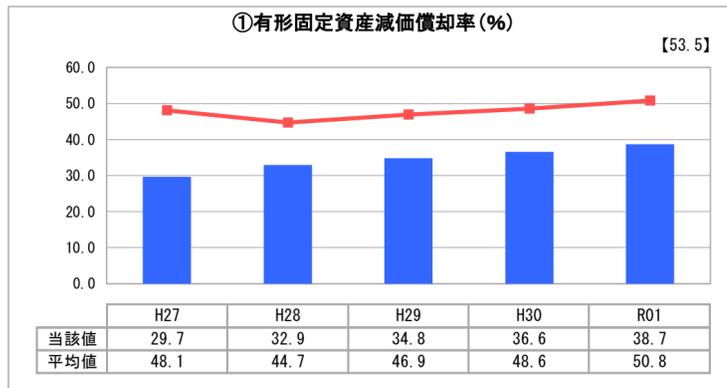
| 許可病床（一般） | 許可病床（療養） | 許可病床（結核） |
|----------|-----------|-------------|
| 154 | 50 | - |
| 許可病床（精神） | 許可病床（感染症） | 許可病床（合計） |
| - | 4 | 208 |
| 稼働病床（一般） | 稼働病床（療養） | 稼働病床（一般+療養） |
| 154 | 50 | 204 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該病院値（当該値） |
| — | 類似病院平均値（平均値） |
| 【 | 令和元年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

| 再編・ネットワーク化 | 地方独立行政法人化 | 指定管理者制度導入 |
|------------|-----------|-----------|
| - | - | - |
| 年度 | 年度 | 年度 |

I 地域において担っている役割

- ① 医療機関や介護施設等と密接に連携し、住民の安心を24時間365日守るための医療の提供
- ② 二次救急医療を担い、小児医療、災害医療、感染症医療等、民間医療機関では提供できない不採算・特殊部門に関わる医療の提供
- ③ 国保直営診療施設として保健・福祉・介護分野の密接な地域連携の核となっており、国東市における地域包括ケアシステムを構築する役割
- ④ 多種にわたる学生の地域医療実習の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経常収支比率】【医業収支比率】類似団体平均以上で推移してはいるものの、前年よりは悪化した。
 【累積欠損金比率】過去の特別損失（現金支出を伴わない費用）の累積であり、単に経営赤字の累積を示すものではない。
 【病床利用率】類似団体より高い水準にあるものの、近年伸び悩んでおり、収益確保のためには十分な利用率とはいえない。
 【1人1日当たり収益】入院1人1日当たり収益が頭打ちの状況にあるが、令和2年度開始のDPC制度によって収益の改善が望まれる。
 【職員給与費対医業収益比率】類似団体平均より高く推移しており、前年より悪化している。職員の適正配置や給与費の適正化が引き続き検討課題となってくる。
 【材料費対医業収益比率】類似団体に比べ低く推移しており、適正水準である。

2. 老朽化の状況について

【有形固定資産減価償却率】平成24年度に新病院建設後、未償却残高も多く、類似団体平均を下回っているものの、一部施設の老朽化が発生しており、修繕費の増加が懸念される。
 【器械備品減価償却率】新病院建設時に更新した医療機器の減価償却が概ね終了し、類似団体平均を若干上回っている。一部の高額医療機器について更新時期が迫っており、中長期的な更新計画を策定する必要がある。
 【1床当たり有形固定資産】類似団体平均を下回っており、適正水準である。

全体総括

新公立病院改革ガイドラインにおいて示されている経常収支比率100%の目標を早急に達成する必要がある。決算状況を分析すると医業収益の減少に対して費用が増加することによる経営の非効率性が進行していることがうかがえる。収益面において平均単価や病床利用率の上昇に限界が見える中、次年度より適用されるDPC制度の運用やその他の増収に向けての取組みを更に強化していく。また、引き続き非常勤診療科の常勤医確保にも力を入れていく。一方で費用面においては給与費対医業収益比率が高いことが指摘されており、給与制度の抜本的な見直しは喫緊の課題といえる。
 また、有形固定資産の保有状況は適正な水準にあるものの、今後は旧館の改修、高額医療機器の更新などが予定されている。大型の設備投資を見据え、経営・財務・投資など様々な側面から中長期計画を策定し、病院運営の将来の在り方を考えていく必要がある。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。